

担当 中田 喜万

[講義：毎週金曜 2 時限]

2024 年 7 月 26 日（金）第 2 時限 実施

中央棟 401 教室にて

※B 4 用紙 1 枚両面に自筆で記入したメモだけ持ち込み可。

手書きを（縮小）コピーしたものも、自筆で記入したメモとみなす。

そのメモは試験後に回収する。自分の名前・学籍番号を明記しておくこと。

なお海外からの留学生には、持ち込みについて特別に配慮することがある。

※下記の問題すべてに解答すること。問題順どおりに答えなくてもよいが、どの問題に対応する解答かを明示すること。

※所定の答案用紙（罫線入り）に、読みやすい文字で記入すること。

解答の文字が薄くならないように注意すること。

答案用紙が不足したら申し出ること。

【 問 題 】

第一問 次の文章を読んで、空欄（1）～（13）にあてはまる語を記しなさい。また、下線部（ α ）（ β ）の読み方をひらがな又はカタカナで記しなさい。

清朝最後の皇帝愛新覺羅溥儀_(α)は (1) 革命によって廃位されたが、日本陸軍の工作によって、1932 年、新たに満州国の皇帝に擁立され、ここに傀儡国家が成立した。

満州国では「五族協和」の理念が標榜された。ここでの「五族」は、日本民族・満州族・漢族・モンゴル族（内蒙古）・ (2) 族である。その実現のため、(3) 大学という高等教育機関もやがて新設され、「五族」の青年らが寝食を共にして学んだ。

たしかに真剣に東アジアの連帯をめざす者がいた。古くは日露戦争前、西洋列強に対抗してアジア・モンロー主義を説いた学習院長・貴族院議長の (4) がいたように、この時もアジア主義の立場から中国社会研究を先導した、橘 樸_(β) のような人物がいた。

彼は奉天（現在の瀋陽）で関東軍の〔5〕と〔6〕と会見し、満州国を支持する。市井の歯科医、小沢開作という人物も、「五族協和」のための運動に没入し、自分の息子の一人に、〔5〕の「征」字と〔6〕の「爾」字を用いて「征爾」と名づけるほどだった。

現実には露骨な日本人優越であった。だから、1945年8月にソ連が突如侵攻してくると、支配権を失った日本人らの引き揚げの際は、現地住民の反発の中、辛酸を経験することになる。特に奥地に入植した開拓団の農民らが大量、命を落とした。中国〔7〕孤児の問題も、この時に生じた。

理念が虚構だったとはいえ、新国家の経済発展に尽くし、一時の夢を見たことも事実であった。その中心的な機関が、満鉄こと南満州鉄道株式会社であった。ここに有能な人材が日本から渡ってきた。鉄道技師らだけでなく、満鉄〔8〕部という、すぐれたシンクタンクを擁していた。

明治五年、〔9〕駅（現在の汐留付近）＝横浜駅（現在の〔10〕駅付近）間の鉄道開業以来、日本の内地の線路のほとんどが狭軌で敷設されたのに対して、大陸に敷設された満鉄の線路も〔2〕総督府鉄道も〔11〕軌であった。幅が広い方が当然、走行が安定し、高速化が可能になる。費用が余計にかかるが、それでも実現させた。そこを蒸気機関車で急行「ひかり」号と「〔12〕」号が走っていた。また、特急「〔13〕」号のために開発された巨大機関車は、車体が流線型で、当時日本人の開発した列車で最高速度を出せた。内地よりも植民地の方が高性能を誇ったことになる。

第二問 次の文章を読んで、空欄（ア）～（コ）にあてはまる語を記しなさい。また、下記の設定問に答えなさい。

徳川慶喜が恭順の意を示して隠居し、江戸城が明け渡された後、戊辰戦争における官軍の最大の標的となり「朝敵」とされたのは、先に京都〔ア〕職を務めていた松平容保であった。たった4年前の〔イ〕の変（蛤御門の変とも）では松平容保が禁裏御所を護衛していたから、「官軍」と「朝敵」とが急に逆転してしまった。

〔ウ〕若松城に立てこもる松平家に対して、官軍側は土佐藩士〔エ〕が参謀として指揮にあたった。激しい攻城戦のさ中、十六、七歳の少年らで編制され、前線に出て戦っていた〔オ〕隊の多くが戦死、生き残った隊士も、戦火に包まれる城を観て落城と誤認し、飯盛山で自刃してしまったという悲話は有名になった。後に物理学者、東京帝国大学総長を務めることになる〔カ〕も、〔オ〕隊に編入されるところ、一歳若かったため猶予された。紙一重で生き残ったといつてよい。

〔カ〕の兄、浩は国家老の家督を継ぎ、主君の京都〔ア〕職の任務を支えた。戊辰戦争でも転戦し、活躍したが、〔ウ〕若松城の籠城戦では、大砲の攻撃で家族を失う。降伏後、現在の〔キ〕県下北半島の荒地などに新設された、斗南藩3万石に移封されると、そこでも大参事（筆頭家老）として経営にあたるが、「3万石」とは名ばかりの、寒冷の火山灰地という不毛の土地で、病死者、餓死者が続出する惨状であった。後年、当時のことを、「みちのくの斗南いかにと 人間はば 神代のままの 国と答えよ」と歌に詠んだ。

廃藩置県の後、浩は〔ク〕に見出されて陸軍に出仕することになり、西南戦争の際には熊本城を守る〔ク〕を支援した。〔ク〕は後に陸軍士官学校長を経て、学習院長、華族女学校長。浩も陸軍軍人として昇進する傍ら、高等師範学校長に任命される。「朝敵」とされた側でも能力次第で出世できたのが、明治国家の活力であった。

西南戦争に従軍した旧〔ウ〕藩士に、柴四朗もいた。彼も〔ク〕の知遇を得る。その2年後、〔ク〕が陸軍士官学校長だったときに同校を卒業した一人、柴五郎は、四朗の実弟であった。柴兄弟もまた、〔ウ〕戦争で家族兄弟の多くを失っていた。弟の五郎はそのまま陸軍軍人として昇進し、陸軍大将にまで上りつめた。兄の四朗は米国留学の機会を得て、帰国後に東海散士という筆名で、愛国主義・ロマン主義をうたう長編政治小説『〔ケ〕』を発表した。のち福島県選出の衆議院議員など。

官軍の〔エ〕は、勝利を素直に喜べたわけではなかった。松平容保の家来たちが奮戦、殉職する一方で、〔ウ〕領の一般の庶民らは、戦争の勝敗よりも自分の家財にしか関心を有さなかったからである。このような「上下隔離」のままでは日本の富国強兵は難しいから、大きな変革の必要を感じた。〔γ〕やがて〔エ〕は、〔コ〕民権運動の指導者として活躍し、1881年〔コ〕党の党首となる。

[設 問]

下線部〔γ〕について、そのために〔エ〕が考えた政策はどのようなものであったか。

第三問

(A) いわゆる旭日旗とは、何を表す図像であるか。

(B) 旭日旗について近年、韓国の世論の中に、これを「戦犯旗」として非難する意見があるが、相当の誤謬が含まれている。それを3点、簡潔に指摘しなさい。

第四問 2024年7月、最高裁判所大法廷は、旧 (＃) 保護法が憲法違反であったとする判断を初めて示し、この法律によって障害などを理由に不妊手術を強制された人たちに国が賠償することを命じた。いわゆる (＃) 学的発想は、今日において到底受け入れられないものである。この空欄(＃)にあてはまる語を記しなさい。

また、このことをふまえて、以下に掲げる福沢諭吉の文章を論評しなさい。福沢は能力主義による自由競争を説いたことで知られる。

人の能力には天賦遺伝の際限ありて、決して其の以上に上るべからず。牛馬の如き、其の良否は二、三歳のときに識別すること易しと云ふ。人生も牛馬に異ならず。彼の相撲の番付の末席に二年も三年も名を記されたる小男が関取に昇進せんことはとても望むべからず。唯精神の働は無形にして、身体の大小強弱を見る如く幼少の時より其の智慧を識別すること易からざるが故に、ややもすれば教育を見ること重きに過ぎ、「人学べば智なり。学ばざれば愚なり」とて、智慧は唯教育の如何に存することと信じて、恰も人力を以て智者を製作せんと欲するものなきに非ず。されども是は大なる間違にて、人の子の天賦に智慧の定度あるは、馬の子が良否に約束あるが如く、力士の昇進に際限あるが如くにして、苟も其の達すべきに達したる上は、毫も其の以上に出づるを得べからず。古人の言に「上知と下愚とは移らず」と云ひたれど、移らざるもの豈唯上下に限らんや。中知、中愚、幾百千段の優劣は既に先天に定まりて決して動かざるものなり。

(福沢諭吉「教育の力」1885～86年)

扱人間の体格性質も之を他の動物に比して素より上下尊卑完全不完全の別こそあれ、其の世々遺伝の約束に於ては些少の相違ある可らず。人畜正に同一様にして〔家畜改良と同様に〕、薄弱の父母に薄弱の子あり、強壯の子に強壯の父母あり、其の病質を遺伝し、其の能力を遺伝し、身体の強弱、精神の智愚、都て父母祖先以来の遺物のみならず、其の智能の種類も亦遺伝の約束に漏れずして、文武芸学常に先人に類似する其趣は、獵犬の子に獵犬を生じ、守夜犬の子に守夜犬を生じて、其毛色までも親に似るが如し。此事実果して違ふことなしとすれば、爰^{こゝ}に人間の婚姻法を家畜改良法に則り、良父母を選択して良児を産ましむるの新工夫ある可し。

其の大略を云はんに、先づ第一に強弱智愚雜婚の道を絶ち、其體質の弱くして心の愚なる者には結婚を禁ずるか、又は避孕^{ひよう}〔＝避妊〕せしめて子孫の繁殖を防ぐと同時に、他の善良なる子孫の中に就ても善の善なる者を精選して結婚を許し、或は其繁殖の速ならんことを欲すれば一男にして数女に接するは無論、配偶の都合により一女にして数男を試るも可なり。

(福沢諭吉「人種改良」1896～97年)

以上

【 解 説 】

第一問

- (1) 辛亥 (2) 朝鮮 (3) 建国 (4) 近衛篤磨 (5) 板垣征四郎
(6) 石原莞爾 (7) 残留 (8) 調査 (9) 新橋 (10) 桜木町 (11) 標準
(12) のぞみ (13) あじあ (α) アイシンカクラ フギ (β) たちばな しらき

第二問

- (ア) 守護 (イ) 禁門 (ウ) 会津 (エ) 板垣退助 (オ) 白虎 (カ) 山川健次郎
(キ) 青森 (ク) 谷干城 (ケ) 佳人之奇遇 (コ) 自由 (γ) 民撰議院の設立

第三問

(A) 日の出の勢い

(B) 第一に、近代国家の独占的使用ではなく、民間でも（例えば大漁旗でもビール広告でも新聞社旗でも）広く用いられてきた図像であること。第二に、16条に放射する図像に特定して、戦前は軍旗として使用され、戦後は自衛隊旗として使用されてきたことは事実であるが、それは全体主義や軍国主義の象徴と別のことであること（ナチス・ドイツの鉤十字とドイツ軍旗の鉄十字は別物）。第三に、放射する図像は、特段、日本にすら限られず、世界中で様々な形で採用されてきたこと（ディズニーのダンボも、チベット国旗も）。

第四問

(#) 優生

福沢諭吉が、伝統的な身分特権によらず、実学で才智を磨き、互いに自由で独立した、対等な立場で、競争して文明社会の発展に寄与することを、明治時代に推奨したことは、よく知られている。もしも全員が同じ条件を出発点として、一定のルールの下で自由競争できるならば、今日でも説得力をもつ自由主義論であろう。

しかし、その競争が自分の意志と努力ではどうにもならず、先天的な遺伝によって結果が決まってしまうとすれば、その自由競争を倫理的に正当化するのは難しい。しかも観察するところ、体格や運動能力がそうであるのと同様、智慧の程度も遺伝によって決定されるらしい。いかに教育を施そうとも、「人の子の天賦に智慧の定度ある」ことを認めざるを得ないとすれば、学力考査による選抜を倫理的に正当化するのに深刻な疑義が生じる。

（もちろん、もっと後天的な教育の効果を重視し、その教育の方法次第であると議論する

道もありえるし、遺伝以外の家庭環境、経済力や文化資本を問うべき場合もあるだろう。)

実に福沢諭吉の場合、先天的な能力差を埋める手段は、端的に「人種改良」であった。家畜改良の方法に準じて行おうというのである。それは今日において到底受け入れられない優生学的発想であった。

福沢を批判することは容易い。しかし翻って今日、自由経済至上主義を生きぬく人々にとって、少しでも家族の生存が有利になるよう思慮をめぐらしてしまうのも人情かもしれない。福沢の陥穽は他人事でないのである。

以上